

283. 山岸暁美, 森田達也, 他: 地域のがん緩和ケアの課題と解決策の抽出—OPTIM-Studyによる複数地域・多職種による評価—. 癌と化学療法 38(11): 1889-1895, 2011.
284. 小川朝生, (Q)transcranial magnetic stimulation(TMS)の実施状況. 日本医事新報, 2011, 55-56
285. 小川朝生, 「怒る」患者—隠れているせん妄をみつける. 看護技術, 2011, 57: 70-73
286. 小川朝生, せん妄を家族に説明する. 看護技術, 2011, 57: 172-175
287. 小川朝生, せん妄と認知症の症状の見分け方. 看護技術, 2011, 57: 250-253
288. 小川朝生, レスキューが効かない痛み. 看護技術, 2011, 57: 337-340
289. 小川朝生, せん妄患者への声のかけ方. 看護技術, 2011, 57: 565-568
290. 小川朝生, あなたみたいな若い人にはわからないわよ. 看護技術, 2011, 57: 668-671
291. 小川朝生, 患者だけではなく家族も不安. 看護技術, 2011, 57: 741-744
292. 小川朝生, 告知の後に患者さんが泣いています. 看護技術, 2011, 57: 846-849
293. 小川朝生, 傾聴で解決できること、できないこと. 看護技術, 2011, 57: 932-935
294. 小川朝生, 予期悲嘆は起こさなければならぬのか. 看護技術, 2011, 57: 1023-1025
295. 小川朝生, 患者さんのことを主治医に相談しても話になりません. 看護技術, 2011, 57: 1252-1255
296. 小川朝生, あなたは大丈夫?. 看護技術, 2011, 57: 1356-1359
297. 小川朝生, 終末期がん患者における精神刺激薬の使用. 精神科治療学, 2011, 26: 857-864
298. 小川朝生, SHAREを用いた化学療法中止の伝え方. がん患者ケア, 2011, 5: 3-7
299. 小川朝生, 新しい向精神薬を活用する. 緩和ケア, 2011, 21: 606-610
300. 小川朝生, がん患者における医療用麻薬および向精神薬の実態調査. 医療薬学, 2011, 37: 437-441
301. 小川朝生, ガイドラインの分かりやすい解説. 緩和ケア, 2011, 21: 132-133
302. 小川朝生, 臨床への適用と私の使い方. 緩和ケア, 2011, 21: 134-135
303. 小川朝生, 特集にあたって. レジデントノート, 2011, 13: 1194-1195
304. 小川朝生, 入院患者の不眠とせん妄を鑑別するポイントを教えてください. レジデントノート, 2011, 13: 1215-1219
305. 小川朝生, 統合失調症. 看護学生, 2011, 58: 26-30
306. 小川朝生, がん専門病院の立場から. 外来精神医療, 2011, 11: 17-19
307. 小川朝生, 家族の心理状態について. ホスピスケア, 2011, 22: 30-55
308. 小川朝生, 平成 22 年度厚生労働科学研究がん臨床研究成果発表会. Medical Tribune, 2011, 44: 22
309. 小川朝生, Cancer-brainとうつ病. Depression Frontier 9: 85-92, 2011
310. 清水 研: QOLを低下させる心の病。早期治療で改善を. がんサポート, 112, 50-53, 2012
311. 清水 研: 緩和ケアにおいて心身医学はどのような貢献ができるか? 心身医学, 52, 617-622, 2012
312. 矢野智宣, 内富庸介: 周術期のせん妄の診断と治療術前からリスク因子に対応し、必要に応じて薬物治療を. Life Support and Anesthesia, 19(2): 144-148, 2012
313. 藤原雅樹, 内富庸介, 他: うつ状態に対する lamotrigine の急性効果の検討. 臨床精神薬理, 15(4): 551-559, 2012
314. 内富庸介: がん患者の抑うつと薬物治療. 臨床精神薬理, 15(7): 1135-1143, 2012
315. 内富庸介: がん医療においてサイコオンコロジスト築いてほしい心のケア体制. CLINICIAN, 59: 26-32, 2012
316. 内富庸介: がん医療におけるコミュニケーションスキル. 造血細胞移植, 24: 2-3, 2012
317. 内富庸介: 新規抗うつ薬. CLINICIAN, 59(8): 14-17, 2012
318. 矢野智宣, 内富庸介, 他: うつ病を伴う口腔灼熱感症候群に pregabalin が有効であった 1 例. 精神医学, 54(6): 621-623, 2012
319. 内富庸介: がん患者の意思決定を支援する. Nursing Today, 27(5): 50-53, 2012
320. 内富庸介: 悪い知らせを伝える際のコミュニケーション・スキル SHARE プロトコール. PSYCHIATRIST, 17: 5-22, 2012

321. 井上真一郎, 内富庸介: B. サイコオンコロジー. 乳腺腫瘍学. 日本乳癌学会(編), 金原出版株式会社, 325-330, 2012.
322. 内富庸介: サイコオンコロジー領域における抗うつ薬の役割. Depression Strategy うつ病治療の新たなストラテジー. 小山司/監修, 先端医学社, 7-12, 2012.
323. 井上真一郎, 内富庸介: ⑥緩和医療におけるせん妄症例 B. 病棟・ICU で出会うせん妄に診かた. 八田耕太郎, 岸泰宏(編), 中外医学社, 153-167, 2012
324. 寺田整司, 内富庸介: 認知症を伴う糖尿病性腎症患者のケーススタディ. 糖尿病×CKD 診療ガイド Q&A. 榎野博史(編), 南山堂, 167-168, 2012.
325. 小川朝生/内富庸介(編): 精神腫瘍学クリニックエッセンス. 日本総合病院精神医学会がん対策委員会(監修), 創造出版, 1-333, 2012.
326. 明智龍男: メメント・モリ. 精神医学 54: 232-233, 2012
327. 明智龍男: がん終末期の精神症状のケア. コンセンサス癌治療 10: 206-209, 2012
328. 明智龍男: 緩和ケアと抑うつ-がん患者の抑うつの評価と治療. 「精神科治療学」編集委員会(編) 気分障害の治療ガイドライン. 星和書店, 東京, pp. 258-262, 2012
329. 明智龍男: がん患者の心のケア-サイコオンコロジーの役割. NHKラジオあさいちばん. NHKサービスセンター, 東京, pp. 100-110, 2012
330. 明智龍男: 緩和ケアに関する学会などについての情報-日本サイコオンコロジー学会、日本総合病院精神医学会. ホスピス緩和ケア白書2012. 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, 東京, pp. 71-73, 2012
331. 明智龍男: がん患者の自殺、希死念慮. 内富庸介, 小川朝生. (編) 精神腫瘍学クリニックエッセンス. 創造出版, 東京, pp. 75-87, 2012
332. 木下寛也, 松本禎久, 他: がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響. Palliative Care Research. 7(2): 348-53, 2012.
333. 松本禎久, 小川朝生. がん患者の症状緩和-精神症状(せん妄, 抑うつ, 睡眠障害など)・倦怠感. Modern Physician. 32(9):1109-1112, 2012.
334. 松本禎久. 国立がん研究センター東病院における専門的緩和ケアサービスの活動. がん患者と対症療法. 23 (2): 158-162, 2012.
335. 古村和恵, 森田達也, 他: 市民の緩和ケアに対するイメージの変化. 緩和ケア 22(1):79-83, 2012.
336. 福本和彦, 森田達也, 他: オピオイド新規導入タイトレーションパスががん疼痛緩和治療に与える影響. 癌と化学療法 39(1):81-84, 2012.
337. 佐藤泉, 森田達也, 他: 在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価. 訪問看護と介護 17(2):155-159, 2012.
338. 井村千鶴, 森田達也, 他: 患者・遺族調査の結果に基づいた緩和ケアセミナーの有用性. ペインクリニック 33(2):241-250, 2012.
339. 森田達也: 医療羅針盤 私の提言(第50回) 地域緩和ケアを進めるためには「顔の見える関係」を作ることが大切である. 新医療 39(3):18-23, 2012.
340. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域で行うデスカンファレンスの有用性と体験. 緩和ケア 22(2):189-194, 2012.
341. 森田達也: がん性疼痛に対する鎮静薬の副作用対策. コンセンサス癌治療 10(4):192-195, 2012.
342. 森田達也: 緩和ケアチームの活動とOPTIM の成果. Credentials 44:9-11, 2012.
343. 鄭陽, 森田達也: EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第1回 WHO step II オピオイド: 弱オピオイドの使用、WHO step III オピオイド: オピオイドの第1選択. 緩和ケア 22(3):241-244, 2012.
344. 森田達也, 他: 地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study. Palliat Care Res 7(1):121-135, 2012.
345. 古村和恵, 森田達也, 他: 迷惑をかけてつらいと訴える終末期がん患者への緩和ケア-遺族への質的調査からの示唆. Palliat Care Res 7(1):142-148, 2012.
346. 市原香織, 森田達也, 他: 看取りのケアにおける Liverpool Care Pathway 日本語版の意義と導入可能性-緩和ケア病棟 2

- 施設におけるパイロットスタディ. Palliat Care Res 7(1):149-162, 2012.
347. 森田達也, 他: 地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が地域連携のために同職種・他職種に勧めること. Palliat Care Res 7(1):163-171, 2012.
348. 森田達也, 他: 在宅緩和ケアを担う診療所として在宅特化型診療所とドクターネットは相互に排他的か?. Palliat Care Res 7(1):317-322, 2012.
349. 森田達也, 他: 地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」とは何か?. Palliat Care Res 7(1):323-333, 2012.
350. 山田博英, 森田達也, 他: 患者・遺族調査から作成した医療者向け冊子「がん患者さん・ご家族の声」. Palliat Care Res 7(1):342-347, 2012.
351. 前堀直美, 森田達也, 他: 外来患者のがん疼痛に対する保険薬局薬剤師の電話モニタリング・受診前アセスメントの効果. ペインクリニック 33(6):817-824, 2012.
352. 森田達也: 臨床診断より優れた進行がん患者の予後予測モデル 開発予測モデルの再現性は未確認. MMJ 8(2):102-103, 2012.
353. 森田達也: 日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部第10回年次大会から. 緩和ケア地域介入研究<OPTIM-study>が明らかにしたこと:明日への示唆. Best Nurse 23(7):6-15, 2012.
354. 岩崎静乃, 森田達也, 他: 終末期がん患者の口腔合併症の前向き観察研究. 緩和ケア 22(4):369-373, 2012.
355. 田村恵子, 森田達也, 他(編集): 看護に活かすスピリチュアルケアの手引き. 青海社. 東京. 2012. 7.
356. 小田切拓也, 森田達也: EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第2回オピオイドのタイトレーション オピオイドの経皮製剤の役割. 緩和ケア 22(4):346-349, 2012.
357. 大野友久, 森田達也, 他: 入院患者における口腔カンジダ症に対する抗真菌薬の臨床効果に関する研究. 癌と化学療法 39(8):1233-1238, 2012.
358. 今井堅吾, 森田達也: EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第3回 1 オピオイドによる嘔気・嘔吐に対する治療, 2 オピオイドによる便秘に対する治療, 3 オピオイドによる中枢神経症状に対する治療. 緩和ケア 22(5):428-431, 2012.
359. 森田達也: 緩和ケア領域における臨床研究: 過去、現在、未来. 腫瘍内科 10(3):185-195, 2012.
360. 木下寛也, 森田達也, 他: がん専門病院が地域緩和ケアの向上のために取り組んでいることと課題. 癌と化学療法 39(10):1527-1532, 2012.
361. 森田達也: クローズアップ・がん治療施設(28)聖隷三方原病院 腫瘍センター・緩和ケア部門. 臨床腫瘍プラクティス 8(4):415-417, 2012.
362. 鄭陽, 森田達也: EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第4回1. アセトアミノフェンとNSAIDsの役割. 2. 鎮痛補助薬の役割. 3. 腎機能障害のある患者へのオピオイドの使用. 緩和ケア 22(6):522-525, 2012.
363. 森田達也: 55 緩和医療 1. 疼痛緩和と終末期医療. 新臨床腫瘍学 改訂第3版. 日本臨床腫瘍学会 編. 南江堂. 東京. 673-682, 2012. 12.
364. 木澤義之, 森田達也, 他: 地域で統一した緩和ケアマニュアル・パンフレット・評価シートの評価: OPTIM-study. Palliat Care Res 7(2): 172-184, 2012.
365. 山本亮, 森田達也, 他: 看取りの時期が近づいた患者の家族への説明に用いる『看取りのパンフレット』の有用性: 多施設研究. Palliat Care Res 7(2):192-201, 2012.
366. 森田達也, 他: 地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が最も大きいと体験すること: OPTIM-study. Palliat Care Res 7(2):209-217, 2012.
367. 木下寛也, 松本禎久, 森田達也, 他: がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響. Palliat Care Res 7(2):348-353, 2012.
368. 森田達也, 他: 異なる算出方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較. Palliat Care Res 7(2):374-381, 2012.
369. 森田達也, 他: 患者所持型情報共有ツール「わたしのカルテ」の評価:OPTIM-study. Palliat Care Res 7(2):382-388, 2012.
370. 白髭豊, 森田達也, 他: OPTIM プロジェ

- クト前後での病院から在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化. Palliat Care Res 7(2):389-394, 2012.
371. 森田達也, 他: 遺族調査に基づく自宅死亡を希望していると推定されるがん患者数. Palliat Care Res 7(2):403-407, 2012.
372. 上山栄子, 小川朝生, 他: 反復経頭蓋磁気刺激によるラット海馬における神経細胞新生の増加. 精神神経学雑誌, 114(9): 1018-1022. 2012
373. 松本禎久, 小川朝生: がん患者の症状緩和. Modern Physician. 32(9): 1109-1112, 2012
374. 小川朝生: がん患者の精神心理的ケアの最大の問題点. がん患者ケア. 5(3): 55, 2012
375. 小川朝生: がん患者に見られるせん妄の特徴と知っておきたい知識. がん患者ケア. 5(3):56-60, 2012
376. 小川朝生: 悪性腫瘍(がん). 精神看護. 15(4): 76-79, 2012
- 学会発表
1. Uchida M, Akechi T, Okuyama T, Sagawa R, Nakaguchi T, Endo C, Yamashita H, Toyama T, Furukawa TA: Patients' supportive care needs and psychological distress in advanced breast cancer patients in Japan. Patients' supportive care needs and psychological distress in advanced breast cancer patients in Japan, 57th Psychosomatic Medicine, 2010 Nov
2. Nakaguchi T, Akechi T, Okuyama T, Sagawa R, Uchida M, Ito Y, Arakawa A, Nishikawa H, Ishida T, Sugie C, Furukawa TA: Usefulness of eye movement desensitization and reprocessing (EMDR) for psychological nausea, vomiting and learned food aversion experienced by cancer patients receiving repeated chemotherapy: a case series. Book Usefulness of eye movement desensitization and reprocessing (EMDR) for psychological nausea, vomiting and learned food aversion experienced by cancer patients receiving repeated chemotherapy: a case series, 57th Psychosomatic Medicine, 2010 Nov
3. Akechi T, Okuyama T, Endo C, Sagawa R, Uchida M, Nakaguchi T, Akazawa T, Yamashita H, Toyama T, Furukawa TA: Patient's perceived need and psychological distress and/or quality of life in ambulatory breast cancer patients in Japan, 57th Psychosomatic Medicine, 2010 Nov
4. Okuyama T, Akechi T, Yamashita H, Toyama T, Endo C, Sagawa R, Uchida M, Furukawa TA. Nurses in outpatient chemotherapy center may have difficulty in assessing their patients' symptoms and supportive care needs. Nurses in outpatient chemotherapy center may have difficulty in assessing their patients' symptoms and supportive care needs, 12th World Congress of Psycho-Oncology, 2010 May
5. Akechi T, Okuyama T, Endo C, Sagawa R, Uchida M, Nakaguchi T, Akazawa T, Yamashita H, Toyama T, Furukawa TA. Patient's perceived need and psychological distress and/or quality of life in ambulatory breast cancer patients in Japan. Book Patient's perceived need and psychological distress and/or quality of life in ambulatory breast cancer patients in Japan, 12th World Congress of Psycho-Oncology, 2010 May]
6. Yoshiuchi K, Uchitomi Y. Distress management and communication skills training for oncologists in Japan. Symposium "Psychological distress and bad news communication in East Asia". (Workshop 11) 9th International Congress of Asian Clinical Oncology Society. 2010.8, Gifu, Japan
7. Akechi T: Gender differences in factors associated with suicidal ideation in major depression among cancer patients, 3rd Taiwan Psycho-oncology conference, Taipei, 2011

8. Akechi T: Panel discussion, Akechi T, 3rd Taiwan Psycho-oncology conference, Taipei, 2011
9. Akechi T: Suicidality among Japanese cancer patients, 3rd Taiwan Psycho-oncology conference, Taipei, 2011
10. Akechi T, Okuyama T, Endo C, Sagawa R, Uchida M, Nakaguchi T, Sakamoto M, Komatsu H, Ueda R, Wada M, Furukawa TA: Anticipatory nausea among ambulatory cancer patients undergoing chemotherapy: prevalence, associated factors, and impact on quality of life 13th World Congress of Psycho-Oncology, 2011 Oct
11. Okuyama T, Akechi T, Iida S, Komatsu H, Ishida T, Kusumoto S, Inagaki A, Lee M, Sagawa R, Uchida M, Ito Y, Nakaguchi T: Competency to consent to initial chemotherapy among elderly patients with hematological malignancies, 13th World Congress of Psycho-Oncology, 2011 Oct
12. Sagawa R, Koga K, Nimura T, Okuyama T, Uchida M, Aekchi T: The anger and its underlying factors in patients with cancer, 13th World Congress of Psycho-Oncology, 2011 Oct
13. Shimizu K: Clinical bio-psycho-social risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. EAPON 3rd, 2012.9.7, Beijing
14. Shimizu K: Clinical bio-psycho-social risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. IPOS 14th, 2012.11, Brisbane
15. Akechi T, Miyashita M, Morita T, Okuyama T, Sakamoto M, Sagawa R, Uchitomi Y: Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population. 14th World Congress of Psycho-Oncology. Brisbane; 2012
16. Fujimori M, Akechi T, Uchitomi Y: An exploratory study on factors associated with patient preferences for communication. 14th World Congress of Psycho-Oncology. Brisbane; 2012
17. Kawaguchi A, Watanabe N, Nakano Y, Ogawa S, Suzuki M, Kondo M, Furukawa TA, Akechi T: Group cognitive psychotherapy for patients with generalized social anxiety disorder in Japan: Outcomes at a 1-year follow up and outcome predictors. Association for behavioral and cognitive therapies 46th annual convention. National Harbor; 2012
18. Ogawa S, Watanabe N, Kondo M, Kawaguchi A, Furukawa TA, Akechi T : Quality of life and avoidance in patients with panic disorder with agoraphobia after cognitive behavioral therapy. Association for behavioral and cognitive therapies 46th annual convention. National Harbor; 2012
19. Shimizu K, Nakaya N, Saito-Nakaya K, Akechi T, Yamada Y, Fujimori M, Ogawa A, Fujisawa D, Goto K, Iwasaki M, Tsugane S, Uchitomi Y: Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. 14th World Congress of Psycho-Oncology. Brisbane; 2012
20. Sugano K, Adachi N, Koizumi K, Hirose C, Ito Y, Kubota Y, Nakaguchi T, Uchida M, Okuyama T, Akechi T: Experience of death conference at general hospital setting in Japan In: 14th World Congress of Psycho-Oncology. Brisbane; 2012
21. Uchida M, Okuyama T, Ito Y, Sato S, Takeyama H, Jo T, Akechi T: Prevalence, associated factors and course of delirium in advanced cancer patients. 14th World Congress of Psycho-Oncology. Brisbane; 2012
22. Snyder C, Blackford A, Okuyama T, Akechi T, Yamashita H, Toyama T, Carducci AW: Thanks for the Score Report -- But What Does It Mean? Helping Clinicians Interpret Patient-Reported Outcome(PRO) Scores

- by Identifying Cut-offs Representing Unmet Needs. International Society for Quality of Life Research meeting. Budapest; 2012
23. Watanabe N, Nishida A, Shimodera S, Inoue K, Oshima N, Sasaki T, Inoue S, Akechi T, Furukawa TA, Okazaki Y: Help seeking behaviors among adolescents with self harm - Representative self-report survey of 18104 students. APA Annual Meeting; Philadelphia 2012
  24. erman AH, Yoshiuchi K, et al. Education and training in behavioral medicine worldwide: results of an ISBM ongoing survey. 13th International Congress of Behavioral Medicine 2012. 8, Budapest, Hungary
  25. 9. Yoshiuchi K, et al. Application of a computerized ecological momentary assessment technique in cancer patients receiving home hospice care. 70th Scientific Annual Meeting of American Psychosomatic Society 2012. 3, Athens, Greece
  26. 10. Yoshiuchi K. Application of an ecological momentary assessment (EMA) to evaluate symptoms in cancer patients with home hospice care. (Symposium 1: Psycho-oncology and optimizing assessment and decision-making in cancer care) The 3rd Meeting of East Asia Psycho-Oncology Network (EAPON). 2012. 9, Beijing, China
  27. 11. Yoshiuchi K. Applications of computerized ecological momentary assessment (cEMA) in behavioral medicine research (Keynote Workshop). The 3rd Asia Pacific Expert Workshop on Psychosocial Factors at Work. 2012. 8, Tokyo, Japan
  28. Morita T: Research topics in challenging areas: how to find better practice? Taiwan Academy of Hospice Palliative Medicine, 2012 International Academic Research workshop. 2012. 7, Taiwan
  29. Morita T: Development of clinical guidelines in Japan: interpreting evidence meaningfully to clinical practice. 台湾安寧緩和醫學學會. 2012. 7, 台灣
  30. 内富庸介 : サイコオンコロジー—その歴史と展望— 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 一般演題. 2010. 6, 東京
  31. 内富庸介 : 乳がん治療における心のケア : 特にコミュニケーションの重要性. 第 18 回日本乳癌学会学術総会. 一般演題. 2010. 6, 北海道
  32. 内富庸介 : 難治がんを伝える : サイコオンコロジーの臨床応用. 第 24 回中国四国脳腫瘍研究会. 一般演題. 2010. 9, 岡山
  33. 明智龍男: がん患者とのコミュニケーション: 基礎から応用まで, 第9回日本緩和医療学会教育セミナー, 2010年6月
  34. 中口智博, 明智龍男, 他: 化学療法に起因した予期性悪心嘔吐、食物嫌悪に奏功した短期心理療法-EMDR, 第15回日本緩和医療学会総会, 2010年6月
  35. 安藤満代, 明智龍男, 森田達也, 他: 終末期患者のスピリチュアルケアとしての短期回想法の内容分析, 第15回日本緩和医療学会総会, 2010年6月
  36. 安藤満代, 明智龍男, 森田達也, 他: 病気の体験に意味を見出すJAPAN Benefit Finding Scale開発の試み, 第15回日本緩和医療学会総会, 2010年6月
  37. 明智龍男: シンポジウム「がん医療において精神科医に期待されるもの」 緩和ケアにおける精神的ケアのエッセンス, 第106回日本精神神経学会総会, 2010年5月
  38. 明智龍男: 教育講演 がん患者の心の持ち方を支えるコツ, 第24回日本がん看護学会, 2010年2月
  39. 明智龍男: 夏季セミナー サイコオンコロジー: がん医療における心の医学, 第12回日本放射線腫瘍学会, 2010年8月
  40. 明智龍男: 教育セミナー サイコオンコロジー: がん医療における心の医学, 第16回日本臨床腫瘍学会教育セミナーAセッション, 2010年8月
  41. 吉内一浩, 富田裕一郎, 他. リエゾンという枠組みによる医療スタッフの心のケア. (ワークショップ1「医療スタッフと家族の心のケア」) 第 15 回日本心療内科学会学術大会. 2010. 11, 東京
  42. 2. 吉内一浩. がん医療におけるチーム医療への心療内科医の参加. (合同シンポジ

- ウム「サイコオンコロジーの世界によるこぞ」第23回日本サイコオンコロジー学会総会. 2010.9, 名古屋
43. 3. 4. 吉内一浩. がん医療における心身医学的アプローチ. (シンポジウム4「チーム医療における心身医学的アプローチ」)第51回日本心身医学会総会. 2010.5, 仙台
  44. 松本禎久, 鳥越桂, 他: 当院におけるがん疼痛に対する硬膜外麻酔用のカテーテルを用いた硬膜外鎮痛法の後方視的検討. 第15回日本緩和医療学会総会. 一般演題. 2010.6, 東京
  45. 松本禎久:【こころを支える】 実現困難と考えられる「歩行」が可能となることを望んだ一例. 第15回日本緩和医療学会総会. シンポジウム. 2010.6, 東京
  46. 阿部恵子, 松本禎久, 他: 当院緩和ケア病棟から在宅退院した患者の最期の場所について. 第15回日本緩和医療学会総会. 一般演題. 2010.6, 東京
  47. 鳥越桂, 松本禎久, 他: 急性期型緩和医療における緊急入院患者の特性の検討. 第15回日本緩和医療学会総会. 一般演題. 2010.6, 東京
  48. 渡辺啓太郎, 松本禎久, 他: 症状緩和と目的でMohs pasteを使用し、QOLが改善した食道癌皮膚転移の1例. 第15回日本緩和医療学会総会. 一般演題. 2010.6, 東京
  49. 市田泰彦, 松本禎久, 他: オキシコドン徐放錠から複方オキシコドン注射液への切り換え症例に関する調査. 第4回日本緩和医療薬学会総会. 一般演題. 2010.9, 鹿児島
  50. 森田達也: 教育講演2 緩和治療の最新のエビデンスと実践. 第8回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2010.3, 東京
  51. 森田達也: シンポジウム 1-1 がん疼痛治療を見直してみる—新しい「がん疼痛ガイドライン」をめぐる—. 「疼痛ガイドライン」を読むために必要な臨床疫学の知識. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  52. 森田達也: シンポジウム 2-3 遺族による緩和ケアの質の評価—J-HOPE 研究から見えてくるもの—. 遺族研究から見た「望ましいケア」: 家族の声をしっかりと聞く. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  53. 森田達也: パネルディスカッション 5-1 実証研究から見るスピリチュアルケアの方向性. 患者自身が望む「スピリチュアルケア」: 89名のインタビュー調査から. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  54. 森田達也: 臨床研究ワークショップ 1-1 臨床家が知っておくべき臨床研究の知識と緩和ケアの臨床研究の基本. 臨床家が知っておくべき臨床研究の知識と緩和ケアの臨床研究の基本. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  55. 森田達也: ランチョンセミナー1 「がん疼痛ガイドライン」を臨床で役立てる: 実践. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  56. 三條真紀子, 森田達也, 他: 「終末期がん患者の家族が大事にしたいと思うこと」の概念化: 一般集団・遺族1975名を対象とした全国調査の結果から. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  57. 大谷弘行, 森田達也, 他: 「看取りのパンフレット」を用いた家族への介入研究: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  58. 山岸暁美, 森田達也, 他: 外来進行がん患者の疼痛とQuality of Lifeに関する多施設調査: OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  59. 宮下光令, 森田達也, 他: 地域の病院(一般病棟、緩和ケア病棟)、診療所のがん患者の遺族による緩和ケアの質の評価: OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  60. 宮下光令, 森田達也, 他: がん医療に対する安心感尺度の作成と関連要因: OPTIM-study. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  61. 鈴木留美, 森田達也, 他: 外来で実施可能な緩和ケアのニーズを把握する問診票: 「生活のしやすさの質問票」第3版を使用した2000件の実践: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  62. 福本和彦, 森田達也, 他: 麻薬導入タイトレーションパス作成の効果: OPTIM 浜松. 第15回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6, 東京
  63. 赤澤輝和, 森田達也, 他: 病院内のどこにどんな緩和ケアの冊子をおいたらいい

- のか? : OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
64. 前堀直美, 森田達也, 他: 保険薬局薬剤師の電話モニタリングによる症状緩和の評価: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  65. 末田千恵, 森田達也, 他: がん患者の遺族は、どのくらい介護負担感を感じているのか? : OPTIM-study による多施設調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  66. 山田博英, 森田達也, 他: 地域のがん患者・遺族調査の自由記述の内容分析に基づく病院医師向け緩和ケアリーフレット作成: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  67. 野末よし子, 森田達也, 他: 地域における介護保険の迅速化介入のフォローアップ調査: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6. 18~19 東京
  68. 平井啓, 森田達也, 他: がん患者と遺族の緩和ケアに対する認識と準備性 OPTIM study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  69. 笹原朋代, 森田達也, 他: 標準化した緩和ケアチームの活動記録フォーマットの実施可能性に関する多施設共同研究〜パイロットスタディの結果〜. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  70. 小田切拓也, 森田達也, 他: 原因不明の神経症状と疼痛で緩和ケアチームに紹介された患者の原因と転帰. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  71. 白土明美, 森田達也, 他: 「希望をもちながらも、同時にこころ残りのないように準備しておく」ために医師や看護師は何ができるのか: J-HOPE study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  72. 清水陽一, 森田達也, 他: 遺族からみた死前喘鳴に対する望ましいケア: J-HOPE STUDY. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  73. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟で提供された終末期がん医療の実態に関する多施設診療記録調査: J-HOPE study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  74. 三條真紀子, 森田達也, 他: 家族の視点から見た望ましい緩和ケアシステム: J-HOPE Study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  75. 三條真紀子, 森田達也, 他: 終末期のがん患者を介護した遺族の介護経験の評価及び健康関連 QOL : 7994 名の全国調査 J-HOPE Study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  76. 安藤満代, 森田達也, 明智龍男, 他: 病気の体験に意味を見出す Japan Benefit Finding Scale 開発の試み. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  77. 和田信, 森田達也, 他: EORTC-QLQ-C15PAL 日本語版の信頼性と妥当性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  78. 宮下光令, 森田達也, 他: がん患者に対する緩和ケアの構造・プロセスを評価する尺度 (患者版 Care Evaluation Scale) の信頼性と妥当性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  79. 宮下光令, 森田達也, 他: がん患者に対する包括的 QOL を測定する尺度の信頼性と妥当性の検討. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  80. 宮下光令, 森田達也, 内富庸介, 他: 「緩和ケアの質の臨床指標 (Quality Indicator)」は遺族から見て妥当なのか? 緩和ケア病棟の遺族に対する質問紙調査から. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  81. 宮下光令, 森田達也, 他: 日本の医師 97,961 人に対する緩和ケアに関する知識の実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  82. 五十嵐歩, 森田達也, 他: 終末期がん患者における死亡場所と死亡前の療養場所の特徴: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  83. 秋山美紀, 森田達也, 他: 地域で療養生活を送ることに関する患者、家族の安心感とその要因: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  84. 伊藤富士江, 森田達也, 他: 理論サンプリングに基づく診療所訪問による在宅緩和医療の課題と解決策の抽出: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  85. 青木茂, 森田達也, 他: 地域緩和ケアプログラムによる在宅死亡数の変化と、同一地域における在宅・ホスピス・病院死

- 亡患者の遺族の評価の差：OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
86. 古村和恵, 森田達也, 他: 進行がん患者および遺族は在宅療養について「急な変化や夜間に対応できない」「病院と同じように苦痛を和らげられる」と思っているか? :OPTIM study による多施設調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  87. 宮下光令, 森田達也, 他: 在宅ホスピスケアを受けたがん患者の遺族の在宅療養開始時の意思決定過程: J-HOPE study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  88. 佐々木一義, 森田達也, 他: 地域緩和ケアプログラムによる専門緩和ケアサービスの利用状況の変化: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  89. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域における緩和ケアの連携を促進するための地域多職種カンファレンスの有用性: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  90. 細田修, 森田達也, 他: 診療所における地域緩和ケアカンファレンスの有用性の質的分析: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  91. 古村和恵, 森田達也, 他: 「わたしのカルテ」の運用課題と有用性に関する多地域・多施設インタビュー調査: OPTIM study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  92. 山岸暁美, 森田達也, 他: 地域で緩和ケアを普及させるために取り組むべき課題は何か? : OPTIM study 一介入 4 地域の医療福祉従事者によるフォーカスグループからの課題抽出と意見交換会の評価一. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  93. 安藤満代, 森田達也, 明智龍男: 終末期患者のスピリチュアルケアとしての短期回想法における語りの内容分析. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  94. 坂井さゆり, 森田達也, 他: スピリチュアルケアにおけるケア提供者の基本的態度・考え方の構造—緩和ケア熟練専門職の語りから—. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  95. 吉田沙蘭, 森田達也, 他: 患者に対する予告告知が家族に及ぼす影響の探索—遺族への面接調査の結果から—. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  96. 三條真紀子, 森田達也, 他: 「終末期がん患者の家族が大事にしたいと思うこと」の構成要素: 家族と遺族を対象とした面接調査の結果から. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  97. 三條真紀子, 森田達也, 他: ホスピス・緩和ケア病棟への入院検討時の家族のつらさと望ましい支援に関する質的研究: 遺族への面接調査の結果から. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  98. 牟田理恵子, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟の遺族は追悼会や死別後の手紙をどうとらえているか? : 44 名のインタビュー調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  99. 福田かおり, 森田達也, 他: 「看取りのパフレット」を用いた遺族の体験に関する質的研究: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  100. 木澤義之, 森田達也, 他: 地域の医療機関に勤務する医師の緩和ケアに関する知識・実践・困難感は? がん対策のための戦略研究『緩和ケア普及のための地域プロジェクト』介入前調査から: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  101. 赤澤輝和, 森田達也, 他: 地域に一斉配布した緩和ケアの啓発マテリアルはどうなっているのか? OPTIM 浜松からの全数実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  102. 武林亨, 森田達也, 他: 緩和ケア・医療用麻薬に関する患者、家族の知識とケアの質評価尺度および緩和ケアの準備状態との関連: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  103. 宮下光令, 森田達也, 他: 診療記録から抽出する緩和ケアにおける診療の質の管理評価指標群 (Quality Indicator) の作成と測定. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
  104. 中澤葉宇子, 森田達也, 他: がん診療連携拠点病院緩和ケアチームのコンサルテ

- ーション活動に関する実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
105. 川口知香, 森田達也, 他: 緩和ケアチーム看護師の専従化が緩和ケアチームの活動に及ぼす効果: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
106. 堀江良樹, 森田達也, 他: Second opioid の有効性に関するケースシリーズ. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
107. 鄭陽, 森田達也, 他: 難治性の肛門症状に対する不对神経節ブロックの有効性. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
108. 和田信, 森田達也, 他: 新規抗がん薬第一相臨床試験に関する患者心理の研究. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010. 6, 東京
109. 森田達也: 教育講演 3 終末期せん妄を有する患者家族のケア. 第 23 回日本サイコオンコロジー学会・第 10 回日本認知療法学会. 2010. 9, 愛知
110. 前堀直美, 森田達也, 他: 保険薬局薬剤師の電話モニタリングによる症状緩和の評価: OPTIM 浜松. 第 4 回緩和医療薬学会年会. 2010. 9, 鹿児島
111. 森田達也: 学術セミナー23 緩和治療の最新のエビデンスと実践—がん疼痛ガイドラインを中心に— 第 48 回日本癌治療学会学術集会. 2010. 10, 京都
112. 小川朝生: 精神科医への期待 いま進められている事業から, 第 106 回日本精神神経学会学術総会, 広島県広島市, 2010, シンポジウム 21
113. 鈴木真也, 小川朝生, 内富庸介, 他: せん妄をきたしたがん患者における非定型抗精神病薬の高血糖, 第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都府京都市, 2010, 一般演題 (ポスター)
114. 小川朝生: がん患者におけるコンサルテーションの実際, 第 23 回日本総合病院精神医学会総会, 東京都千代田区, 2010, GHP 精神腫瘍学研修会
115. 小川朝生: 心理士のアセスメント・介入, 第 23 回日本サイコオンコロジー学会研修セミナー, 愛知県名古屋市, 2010,
116. 小川朝生: 患者の意向に沿った治療を考える (意思決定能力), 第 23 回日本サイコオンコロジー学会, 愛知県名古屋市, 2010, JPOS シンポジウム 6
117. 小川朝生: 緩和ケアチーム・フォーラムよりよい活動のために—成熟期への道しるべ—, 第 15 回日本緩和医療学会学術大会, 東京都千代田区, 2010, 職種別フォーラム 4 座長
118. 清水 研: シンポジウム: 緩和医療における精神医学的アプローチの基礎と臨床: 「精神腫瘍学と医療チームによる臨床の実際」 第 5 回日本緩和医療薬学会年会 2011. 09 幕張
119. 清水 研: シンポジウム: 緩和医療と精神腫瘍学の役割: 予防から終末期ケアまで—「精神的苦痛の早期発見と早期治療」 第 70 回日本癌学会学術総会 2011. 10 名古屋
120. 内富庸介: がん医療における心のケア. 第 36 回広島県病院学会. 特別講演. 2011. 2, 広島
121. 内富庸介: がん患者と向き合うためのコミュニケーション. 精神腫瘍学の臨床実践. 第 286 回日本泌尿器科学会岡山地方会. 特別講演. 2011. 2, 岡山
122. 内富庸介: がん患者で見られる抑うつの評価と対応法. 第 8 回日本うつ病学会総会 現代うつ病の輪郭—いま求められる対応—. 教育セミナー1. 2011. 7, 大阪
123. 内富庸介: がんと向き合う、生命に向き合う. 第 24 回日本サイコオンコロジー学会総会. 教育講演. 2011. 9, 埼玉
124. 内富庸介: がん患者の抑うつ: 精神腫瘍学の臨床実践から. 第 21 回日本臨床精神神経薬理学会・第 41 回日本神経精神薬理学会. シンポジウム. 2011. 10, 東京
125. 内富庸介: レビー小体型認知症. 第 39 回臨床神経病理懇話会・第 2 回日本神経病理学会中国・四国地方会. 一般講演の座長. 2011. 10, 岡山
126. 内富庸介: 生命に向き合うリエゾン精神医学. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会. ランチョンセミナー12. 2011. 11, 福岡
127. 岡部伸幸, 内富庸介, 他: コンサルテーション外来を用いた摂食障害外来治療の工夫. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会. 一般講演. 2011. 11, 福岡
128. 馬場華奈己, 内富庸介, 他: リエゾン精神看護専門看護師によるコンサルテーション・リエゾン活動の現状と課題. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会. ポスタ

- 一. 2011. 11, 福岡
129. 伊藤達彦, 清水研, 内富庸介: 外来がん患者に対する適応障害・うつ病スクリーニングの臨床的有用性に関する検討. 第24回日本総合病院精神医学会総会. ポスター. 2011. 11, 福岡
  130. 井上真一郎, 内富庸介: 岡山大学病院におけるせん妄対策センターの立ち上げについて. 第24回日本総合病院精神医学会総会. ポスター. 2011. 11, 福岡
  131. 内富庸介: ワンステップ上のコンサルテーションリエゾン精神医療を目指して～院内スタッフとの協働による身体疾患患者の精神症状マネジメント～. 第24回日本総合病院精神医学会総会. シンポジウムの座長. 2011. 11, 福岡
  132. 内富庸介: 悪性腫瘍・緩和ケア. 第24回日本総合病院精神医学会総会. 座長. 2011. 11, 福岡
  133. 山田光彦, 明智龍男, 他: 実践的精神科薬物治療研究プロジェクト: Japan Trialists Organization in Psychiatry, J-TOP の試み, 第32回日本臨床薬理学会, 2011年12月
  134. 明智龍男: JSCO University 本邦における治療ガイドライン: サイコオンコロジー, 第49回日本癌治療学会, 2011年10月
  135. 明智龍男: ランチョンセミナー がん患者の抑うつの評価とマネジメント, 第24回日本サイコオンコロジー学会総会, 2011年9月
  136. 佐川竜一, 明智龍男, 他: がん患者の看護師に対する「怒り」表出についての関連要因の検討, 第16回日本緩和医療学会総会, 2011年7月
  137. 坂本雅樹, 明智龍男, 他: 腹水濾過濃縮再静注法10例の合併症の検討, 第16回日本緩和医療学会総会, 2011年7月
  138. 鳥井勝義, 明智龍男, 他: Agitation Behavior in Dementia Scale (ABID) の標準化の検討, 第26回日本老年精神医学会, 2011年6月
  139. 明智龍男: サイコオンコロジー—がん医療におけるこころの医学, 平成23年度独立行政法人国立病院機構 良質な医師を育てる研修 特別講演, 2011年6月
  140. 明智龍男: シンポジウム 泌尿器系難治症状の緩和: がん患者の精神症状のマネージメント, 第99回 日本泌尿器科学会総会, 2011年4月
  141. 明智龍男: 教育セミナー サイコオンコロジー: がん医療におけるこころの医学, 第17回日本臨床腫瘍学会教育セミナーAセッション, 2011年3月
  142. 内田恵, 明智龍男, 他: 進行乳がん患者におけるニードと心理的負担, 第169回東海精神神経学会, 2011年2月
  143. 平野道生, 明智龍男, 他: 精神科介入により身体治療を円滑に行うことができたクッシング症候群の一症例, 第169回東海精神神経学会, 2011年2月
  144. 吉内一造. Year in Review (サイコオンコロジー). 第49回日本癌治療学会 JSCO University「緩和医療」2011. 10, 名古屋
  145. 松本禎久, 他: 難治性のがん疼痛に対して局所麻酔薬の间歇的投与による硬膜外鎮痛法を行った4症例. 日本ペインクリニック学会第45回大会. 一般演題. 2011. 7, 松山
  146. 池内彩, 松本禎久, 他: がん疼痛に経口オピオイドの定期内服を開始した患者の嘔気・嘔吐に対する制吐剤の使用実態. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 一般演題. 2011. 7, 札幌
  147. 北條秀博, 松本禎久, 他: 悪性腫瘍による血尿に対して1%ミョウバン水の持続灌流療法が奏功し、在宅移行できた中等度腎障害の1例. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 一般演題. 2011. 7, 札幌
  148. 岩本義弘, 松本禎久, 他: がん患者の呼吸困難に対するオキシコドンの使用実態調査. 第5回緩和医療薬学会. 2011. 9, 千葉
  149. 森田達也: フロンティア企画4「泌尿器系難治症状の緩和」4-1 がん性疼痛ガイドラインのエッセンス: 緩和医療学会がん疼痛ガイドラインのエッセンス. 第99回日本泌尿器科学会総会. 2011. 4, 名古屋
  150. 森田達也: 在宅緩和ケアセミナーin名古屋 2011 在宅における緩和ケアのエッセンス. 身体症状緩和. 第22回日本在宅医療学会学術集会. 2011. 6, 名古屋
  151. 川口知香, 森田達也, 他: 死亡60日以前より緩和ケアチームが介入した症例の検討～早期介入によって何がもたらされるか～. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011. 7, 札幌
  152. 宮下光令, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟

- の遺族の「医療用麻薬」「緩和ケア」「緩和ケア病棟」に対する認識の関連要因：J-HOPE study. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
153. 宮下光令, 森田達也, 他: J-HOPE studyにおける遺族による緩和ケアの質評価とそれに関連する施設要因. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
154. 山本亮, 森田達也, 他: 「看取りのパンフレット」を用いた家族への介入の遺族から見た評価: OPTIM-study. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
155. 大谷弘行, 森田達也, 他: 「看取りのパンフレット」を用いた終末期せん妄のケアに対する遺族評価: OPTIM-study. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
156. 新城拓也, 森田達也, 他: 主治医による死亡確認や臨終の立ち会いが、家族の心理に及ぼす影響についての調査研究. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
157. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟で提供された終末期鎮静の関連要因と遺族による緩和ケアの質評価への影響. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
158. 山口崇, 森田達也, 他: 外来化学療法患者におけるつらさと支障の寒暖計の系時的变化と精神症状スクリーニングツールとしての有用性の検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
159. 小田切拓也, 森田達也, 他: ホスピス病棟における、撓骨動脈拍動の定量的評価の信頼性と、収縮期血圧に対する妥当性. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
160. 永江浩史, 森田達也, 他: 終末期前立腺がん患者の在宅療養維持率の検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
161. 宮下光令, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟の遺族による質の評価は死亡後の経過期間の影響を受けるか? J-HOPE study. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
162. 市原香織, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟看護師による Liverpool Care Pathway 日本語版の有用性評価: 緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディからの検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
163. 森田達也, 他: どのような緩和ケアセミナーが求められているか: 4188名が評価した緩和ケアセミナーの有用性に影響する要因: OPTIM-study. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
164. 鄭陽, 森田達也, 他: 患者・遺族調査の結果をもとにした緩和ケアセミナーの有用性: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
165. 藤本亘史, 森田達也, 他: 早期からの緩和ケアは実現されている: OPTIM 浜松 3年間の経験. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
166. 井村千鶴, 森田達也, 他: 退院前カンファレンス・退院前訪問の遺族から見た評価: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
167. 井村千鶴, 森田達也, 他: 浜松市におけるがん患者の自宅死亡率の推移: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
168. 井村千鶴, 森田達也, 他: 地域で行う困難事例カンファレンスの評価: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
169. 前堀直美, 森田達也, 他: 遺族から見た保険薬局の評価: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
170. 佐藤泉, 森田達也, 他: 在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価 OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
171. 小野宏志, 森田達也, 他: 地域の多職種で作成した「今、遺族に聞きたいこと」からみた在宅ホスピスの評価: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
172. 山内敏宏, 森田達也, 他: 地域におけるホスピスの役割: ホスピスの利用を考える会の評価: OPTIM 浜松. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
173. 古村和恵, 森田達也, 他: 市民公開講座を受講した前後の緩和ケアに対するイメージの変化: OPTIM study. 第16回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7, 札幌
174. 福本和彦, 森田達也, 他: がん患者リハビリテーションにおける適切な目標設定への試み. 第16回日本緩和医療学会学

- 術大会. 2011. 7, 札幌
175. 森田達也: JSCO University2. Palliative Care. Recent research about palliative care in Japan. 第49回日本癌治療学会学術集会. 2011. 10, 名古屋
  176. 小川朝生, せん妄の治療指針改訂に向けて, 第24回日本総合病院精神医学会総会, ワークショップ, 福岡市, 2011. 11
  177. 小川朝生, 精神腫瘍学の見地からーがん医療におけるコミュニケーションについて, 第17回日本死の臨床研究会近畿支部大会, 特別講演1, 奈良県橿原市, 2011. 2
  178. 小川朝生, 疼痛緩和とせん妄に対するアプローチ: Treatment of Delirium, 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会, シンポジウム12-6, 神奈川県横浜市, 2011. 7
  179. 小川朝生, がん相談支援センターにおけるサイコオンコロジーー今後の展望, 第24回日本サイコオンコロジー学会, フォーラム, 埼玉県さいたま市, 2011
  180. 能野淳子, 小川朝生, 他, がん患者を対象とした禁煙外来の取り組み, 第24回日本サイコオンコロジー学会, ポスターセッション, 埼玉県さいたま市, 2011
  181. 寺田千幸, 小川朝生, 他, 多職種によるテレフォンフォローの試み, 第24回日本サイコオンコロジー学会, ポスターセッション, 埼玉県さいたま市, 2011
  182. 清水 研: 腫瘍内科医、看護師との協働によるストレス早期発見・対応プログラム. 第10回日本臨床腫瘍学会 2012. 7, 大阪
  183. 清水 研: 早期からの緩和ケアを実現するために. 第25回日本総合病院精神医学会 2012. 11, 東京
  184. 内富庸介: 患者意向を重視したコミュニケーション技術研修(SHARE): 5年間の軌跡, 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 大阪, 2012. 7, 演者
  185. 白井由紀, 内富庸介: 治療を決める際のがん患者質問促進パンフレットの有用性について, 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会, 大阪, 2012. 7,
  186. 内富庸介: がん患者とのコミュニケーションを多職種で支える～チーム医療の新たなアプローチ～, 第50回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2012. 10, 座長
  187. 内富庸介: 脳腫瘍患者・家族への心の支援: 精神腫瘍学の立場から, 第30回日本脳腫瘍学会学術集会, 広島, 2012. 11, 教育セミナー
  188. 内富庸介: 統合失調症: 脳・生活・思春期発達の交点, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 15, 座長
  189. 大林芳明, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 15, 一般演題
  190. 板倉久和, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例: 緊張状態を呈し、たこつぼ型心筋症を発症した Parkinson 病の一例, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 15, 一般演題
  191. 馬庭真理子, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例: 左後頭葉術後に出現した器質性精神障害に対してパリペリドンが有効であった一例, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 16, 一般演題
  192. 千田真由子, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例: 非けいれん性てんかん発作重積を呈した一例, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 16, 一般演題
  193. 井上真一郎, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例: 精神科医によりせん妄と診断された患者における身体科医からの紹介病名についての検討, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 16, 一般演題
  194. 小田幸治, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引き起こした2症例: 岡山大学病院における「精神科リエゾンチーム加算」の算定および運用方法について, 第53回中国・四国精神神経学会/第36回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 16, 一般演題
  195. 光井祐子, 内富庸介, 他: うつ病患者に投与した mirtazapine がアカシジアを引

- き起こした 2 症例, : 遷延した意識障害が体重増加と共に改善した神経性無食欲症の一例, 第 53 回中国・四国精神神経学会/第 36 回中国・四国精神保健学会, 岡山, 2012. 11. 16, 一般演題
196. 内富庸介: 精神腫瘍学, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 11, 座長
197. 内富庸介: 精神腫瘍学, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 11, 座長
198. 内富庸介: がん患者の心のケア～精神医学と心理学の配合加減～, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 11, 座長
199. 内富庸介: 英語論文を査読するときのポイント, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 12. 1, 演者
200. 内富庸介: 抗うつ薬の反応予測, そして奏効しない際の次の一手は, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 12, 座長
201. 馬場華奈己, 内富庸介, 他: 岡山大学病院における術後せん妄対策の実際-一周術期管理センター連携モデル-, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 11, ポスター
202. 小田幸治, 内富庸介, 他: 岡山大学病院における「精神科リエゾンチーム加算」の算定及び運用方法について, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 11, ポスター
203. 清水研, 明智龍男, 小川朝生, 内富庸介, 他: 肺がん患者に合併する抑うつの危険因子について: 身体・心理・社会面の包括的検討, 第 25 回日本総合病院精神医学会総会, 東京, 2012. 11, ポスター
204. 小川成, 明智龍男, 他: 広場恐怖を伴うパニック障害患者の回避行動がQOLに及ぼす影響, 第4回日本不安障害学会. 2012年2月、東京
205. 明智龍男: シンポジウム 緩和ケアにおける精神的ケアのエッセンス, 第13回日本サイコセラピー学会, 2012年3月、大阪
206. 近藤真前, 明智龍男, 他: 慢性めまいに対する集団認知行動療法の開発, 第108回日本精神神経学会学術総会. 札幌, 2012年5月、札幌
207. 川口彰子, 明智龍男, 他: 全般型社交不安障害に対する集団認知行動療法-長期予後と治療効果予測因子の検討, 第108回日本精神神経学会学術総会. 2012年5月、札幌
208. 伊藤嘉規, 明智龍男, 他: 小児における緩和ケア-家族ケアの重要性, 第17回日本緩和医療学会総会. 2012年6月、神戸
209. 坂本雅樹, 明智龍男, 他: 黄疸による皮膚搔痒感に牛車腎気丸が有効であった2例, in 第17回日本緩和医療学会総会. 2012年6月、神戸
210. 厨芽衣子, 森田達也, 明智龍男, 他: 高齢がん患者のニーズをもとにした身体症状緩和プログラムに関する研究, 第17回日本緩和医療学会総会. 2012年6月、神戸
211. 明智龍男: シンポジウム「緩和ケア」を伝える難しさ 日本サイコオンコロジー学会の立場から, 第17回日本緩和医療学会総会. 2012年6月、神戸
212. 明智龍男: パネルディスカッション「臨床現場で活かせるカウンセリング・スキル」 否認を受け止める, 第17回日本緩和医療学会総会. 2012年6月、神戸
213. 明智龍男: シンポジウム「がん対策基本法後の緩和ケアの進歩と今後の方向性」患者・家族とのコミュニケーションとこころのケア: よりよいがん医療を提供するためのサイコオンコロジーの役割, 第10回日本臨床腫瘍学会総会. 2012年7月、大阪
214. 清水 研, 明智龍男, 内富庸介, 他: 肺がん患者に合併する抑うつの危険因子について: 身体・心理・社会面の包括的検討, 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012年9月、福岡
215. 小崎有理, 明智龍男, 他. P-013: 治療抵抗性統合失調症患者にclozapine投与後, 肺炎と胸膜炎を発症した1例. Paper presented at: 第25回日本総合病院精神医学会; 11月30日, 2012; 東京.
216. 内田恵, 明智龍男, 他: 進行がん患者におけるせん妄の頻度、関連因子、経過, in 第25回 日本総合病院精神医学会総会. 2012年11月、東京
217. 松本禎久: 緩和ケアチームが精神心理的ケアを提供する工夫 精神腫瘍科との連携 包括的で切れ目のないサポートを目指して. 第17回日本緩和医療学会学術大会. シンポジウム. 2012. 6, 神戸
218. 林優美, 松本禎久, 他: 緩和ケア病棟転棟前後にせん妄と診断された患者の後方

- 視的検討. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 一般演題. 2012. 6, 神戸
219. 三浦智史, 松本禎久, 他: がんを家族にどう伝えどう支えるか 「5歳の娘を主語にして話し合う」ことで、がん終末期の親が娘への病状告知を行うに至ったケース. 第17回日本緩和医療学会学術大会. パネルディスカッション. 2012. 6, 神戸
220. 森田達也: シンポジウム12 地域緩和ケア介入研究<OPTIM study>が明らかにしたこと～明日への示唆～ S12-1 OPTIM-studyは何を明らかにしたのか?: 5年間の総括. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
221. 森田達也: シンポジウム16 緩和ケアにおける介入研究のエビデンス～飛躍のために～ S16-1 緩和ケア領域における介入研究: 最近のレビューと日本の将来. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
222. 森雅紀, 森田達也, 他: シンポジウム19 緩和ケアにおける倫理的問題 S19-5 医師はどのように・なぜがん患者に予後伝える・伝えないのか?. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
223. 加藤亜沙代, 森田達也, 他: パネルディスカッション 7 がんと診断された時からの緩和ケアの実践のために～がん治療と緩和ケアの両立～ PD7-6 質問紙によるスクリーニングを臨床に組み込んだ化学療法室での緩和ケア: 5年間の経験. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
224. 藤本亘史, 森田達也, 他: フォーラム 1 緩和ケアチームフォーラム F1-4 緩和ケアチームを高める(活動評価): 緩和ケアチームの多施設活動記録調査の結果から. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
225. 森田達也: 日本緩和医療学会企画 1 アクセプトされる論文の書き方～Best of Palliative Care Research 2011～ 「緩和ケア領域の研究の進め方・論文の仕上げ方」. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
226. 笹原朋代, 森田達也, 他: 緩和ケアチームへの依頼内容と活動実態に対する多施設調査. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
227. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟で提供される終末期がん医療の施設間差と施設背景の関連: 多施設診療記録調査. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
228. 佐藤一樹, 森田達也, 他: 緩和ケア病棟で提供される終末期がん医療の施設間差による緩和ケアの質評価への影響. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
229. 山口崇, 森田達也, 内富庸介, 他: ガイドラインに基づいた進行がん患者に対する輸液療法の影響に関する観察研究. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
230. 秋月伸哉, 森田達也, 他: OPTIM 介入前後での緩和ケアチーム活動の変化. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
231. 宮下光令, 森田達也, 他: 日本の医師の緩和ケアに関する知識に関連する要因: 多変量解析による検討. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
232. 小田切拓也, 森田達也, 他: 後ろ向き研究による、ホスピス入院患者における腫瘍熱と感染の鑑別に寄与する因子の同定. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
233. 秋月伸哉, 森田達也, 他: 地域緩和ケアチーム活動の実態報告 OPTIM 研究. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
234. 厨芽衣子, 森田達也, 明智龍男, 他: 高齢がん患者のニーズをもとにした身体症状緩和プログラムに関する研究. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 6, 神戸
235. 森田達也: がん対策基本法後の緩和ケアの進歩と今後の方向性. 地域単位の緩和ケアを向上するために私たちが次にするべきこと: OPTIM-study からの示唆. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2012. 7, 大阪
236. 森田達也: 招待講演 2 緩和医学における最近の知見と臨床疫学の基礎. 第6回日本緩和医療薬学会年会. 2012. 6, 神戸
237. 大坂巖, 森田達也, 他: パス討論 緩和医療連携. 第19回日本医療マネジメント学会静岡支部学術集会. 2012. 8, 沼津
238. 森田達也: 緩和ケアをつなぐ革新的実践と研究について～大型研究プロジェクト

- (OPTIM) の経験から～. 第 17 回聖路加看護学会学術大会. 2012. 9, 東京
239. 森田達也: 招待講演 2 緩和医学における最近の知見と臨床疫学の基礎. 第 6 回日本緩和医療薬学会年会. 2012. 10, 神戸
240. 森田達也: 招請講演 12 緩和治療の最新のエビデンスと実践. 日本臨床麻酔学会第 32 回大会. 2012. 11, 福島
241. 小川朝生. 医療者育成. 第 25 回日本総合病院精神医学会総会. 2012. 11. 大田区(シンポジウム演者)
242. 小川朝生. がん患者の有症率・相談支援のニーズとバリアに関する多施設調査. 第 50 回日本癌治療学会学術集会. 2012. 10. 25. 横浜 (ポスター)
243. 小川朝生. がん診療におけるせん妄. 第 6 回日本緩和医療薬学会年会. 2012. 10. 7. 神戸市 (シンポジウム演者)
244. 小川朝生. Cancer Specific Geriatric Assessment (CSGA) 日本語版の開発. 第 77 回大腸がん研究会. 2012. 7. 6. 港区 (口演演者)
245. 小川朝生. 緩和ケアチームが精神心理的ケアを提供する工夫. in 第 17 回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市. (シンポジウム座長)
246. 小川朝生. 緩和ケアにおける介入エビデンス. in 第 17 回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市. (シンポジウム演者)
247. 小川朝生. 患者が意思決定できないときの対応. in 第 17 回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市. (パネルディスカッション演者)
248. 小川朝生. 臨床心理士へのサイコオンコロジー教育. in 第 25 回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市. (シンポジウム座長)
249. 小川朝生. 高齢者のサイコオンコロジー. in 第 25 回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市. (シンポジウム演者)
250. 小川朝生. がん相談支援センターとサイコオンコロジーとの連携. in 第 25 回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市. (シンポジウム座長)

なし  
3. その他  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録

## Ⅱ. (総合) 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

（総合）分担研究報告書

包括的精神症状スクリーニング介入プログラムの開発に関する研究

|       |       |                                     |
|-------|-------|-------------------------------------|
| 研究分担者 | 内富庸介  | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科<br>精神神経病態学教室 教授    |
|       | 井上真一郎 | 岡山大学病院 精神科神経科 助教                    |
|       | 小田幸治  | 岡山大学病院 精神科神経科 助教                    |
|       | 高田晴奈  | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科<br>精神神経病態学教室 臨床心理士 |
|       | 福島倫子  | 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科<br>精神神経病態学教室 臨床心理士 |

研究要旨 周術期がん患者を対象とした包括的精神症状スクリーニング介入プログラムの開発を目的として、PERIO (Perioperative Management Center : 周術期管理センター)に協力する形での研究を、平成 24 年 1 月より開始している。「つらさと支障の寒暖計」という簡易評価尺度の妥当性をはじめとして、精神症状の術前評価や早期介入の仕方、評価スケール・介入時期・介入方法などの具体的な内容の検討を行った。その結果、25 名のエントリーが行えたが、大うつ病が 0 名であった。

A. 研究目的

がん患者は周術期において、不安・抑うつ等の精神症状を呈することがよく見られる。よって早期から精神症状に対する包括的なアセスメントやスクリーニングを実施しケアをすすめてゆくことが重要である。本研究では周術期がん患者を対象とした包括的精神症状スクリーニング介入プログラムの開発を目的とする。

(倫理面への配慮)

- ①当研究のプロトコルを平成 23 年 10 月 19 日に倫理委員会に提出し、同年 11 月 29 日に承認を受けた。
- ②対象者全員に研究の主旨を説明し、書面による同意を得ている。
- ③データは匿名化し、外部には持ち出さない。

B. 研究方法

2008 年当院にて PERIO (Perioperative Management Center : 周術期管理センター)が発足し、術前から看護師によって問診等のスクリーニングや医師への連携を行い、また術後においては疼痛管理や理学療法士の早期介入など、多職種による定期的な介入を行っている。本研究では、「つらさと支障の寒暖計」の妥当性をはじめとして、精神症状の術前評価や早期介入の仕方、評価スケール・介入時期・介入方法などの具体的な内容の検討をすすめてゆく。

C. 研究結果

最終的に、当院では 25 名の調査を行った。結果は以下の通りである。

- ・現在の大うつ病性障害 0 名
- ・最近のエピソードが 2~6 か月以内の大うつ病性障害 1 名
- ・最近のエピソードが 6 か月以上前 1 名
- ・最近のエピソードが 1 年以上前 2 名
- ・診断なし 21 名

D. 考察

当院において他科での入院患者を対象とする研究であるため、様々な形での配慮が必要なことが明らかとなった。

また、「現在のうつ病性障害」の診断基準を満たす患者が0名などの結果となったが、当初サンプルサイズの見積もりを行った際よりも少ない結果であった。うつ病性障害が少ない傾向は他の施設も同様の結果であり、このことは、既に精神科受診をしている患者が除外されている等、種々の理由が考えられ、検討の余地がある。

#### E. 結論

適格基準を満たさなかった患者について、詳細に調査を行う必要があると考えられる。そのため、本研究を実施した施設での結果について、検討・解析を行う。

#### F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

#### G. 研究発表

##### 論文発表

1. Akechi T, Okamura H, Shimizu K, Uchitomi Y, et al : Gender differences in factors associated with suicidal ideation in major depression among cancer patients. *Psychooncology* 19:384-389, 2010
2. Asai M, Akechi T, Shimizu K, Ogawa A, Uchitomi Y, et al : Psychiatric disorders and stress factors experienced by staff members in cancer hospitals: a preliminary finding from psychiatric consultation service at National Cancer Center Hospitals in Japan. 8:291-295, 2010
3. Asai M, Uchitomi Y, et al : Psychological states and coping strategies after bereavement among the spouses of cancer patients: a qualitative study. *Psychooncology* 19:38-45, 2010
4. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al : Psychiatric Disorders in Patients Who Lost Family Members to Cancer and Asked for Medical Help : Descriptive Analysis of Outpatient Services for Bereaved Families at Japanese Cancer Center Hospital. *Jpn J Clin Oncol*, 2010
5. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al : Bereavement dream? Successful antidepressant treatment for bereavement-related distressing dreams in patients with major depression. *Palliat Support Care* 8:95-98, 2010
6. Kishimoto Y, Uchitomi Y, et al : Kana Pick-out Test and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease. *Palliat Support Care* 1-8, 2010
7. Matsumoto Y, Shimizu K, Uchitomi Y, et al : Suicide associated with corticosteroid use during chemotherapy: case report. *Jpn J Clin Oncol* 40:174-176, 2010
8. Nakaya N, Uchitomi Y, et al : Personality traits and cancer risk and survival based on Finnish and Swedish registry data. *Am J Epidemiol* 172:377-385, 2010
9. Nakaya N, Uchitomi Y, et al : Increased risk of severe depression in male partners of women with breast cancer. *Cancer* 116:5527-5534, 2010
10. Ogawa A, Shimizu K, Uchitomi Y, et al : Involvement of a psychiatric consultation service in a palliative care team at the Japanese cancer center hospital. *Jpn J Clin Oncol* 40:1139-1146, 2010
11. Shimizu K, Ogawa A, Uchitomi Y, et al : Feasibility and usefulness of the 'Distress Screening Program in Ambulatory Care' in clinical oncology practice. *Psychooncology* 19:718-725, 2010
12. 高木学, 内富庸介, 他: 非鎮静系抗精神病薬 aripiprazole, blonanserin の可能性—急性期, 維持期における改善例を通じて見えてくるもの—。臨床精神薬理, 13: 1771-1777, 2010
13. 高橋真由美, 内富庸介, 他: 緩和ケア領域におけるうつ病。総合隣牀, 59:1224-1230. 2010
14. 大谷恭平, 内富庸介, 他: サハバ-における認知機能障害。腫瘍内科, 5: 202-210, 2010
15. 内富庸介: 精神腫瘍学概論。岡山医学会雑誌, 122: 119-124, 2010
16. 内富庸介, 他: がん患者の心理的反応に配慮したコミュニケーション。日本整形

- 外科学会雑誌, 84:331-337, 2010
17. 明智龍男, 内富庸介: がん患者の抑うつ症状緩和. 別冊・医学のあゆみ 最新うつ病のすべて, 樋口輝彦(編), 医歯薬出版株式会社, 160-164, 2010
  18. 内富庸介, 他: 悪性腫瘍. 脳とこころのプライマリケア1 うつと不安, 下田和孝(編), 株式会社シナジー, 354-362, 2010
  19. 内富庸介: 精神腫瘍学概論. 専門医のための精神科臨床リユミール24, 大西秀樹(編), 中山書店, 2-12, 2010
  20. 藤森麻衣子, 内富庸介: がん医療におけるコミュニケーションスキル. 専門医のための精神科臨床リユミール24, 大西秀樹(編), 中山書店, 139-148, 2010
  21. 藤森麻衣子, 内富庸介: Bad Newsの伝え方・予後の話し合い方. 消化器Book01胃癌を診る・治療する 早期発見から緩和ケア, 株式会社羊土社, 146-152, 2010
  22. Shimizu K, Ogawa A, Uchitomi Y, et al: Treatment response to psychiatric intervention and predictors of response among cancer patients with adjustment disorders. J Pain Symptom Manage, 41(4): 684-91, 2011
  23. Haraguchi T, Uchitomi Y, et al: Coexistence of TDP-43 and tau pathology in neurodegeneration with brain iron accumulation type 1 (NBIA-1, formerly Hallervorden-Spatz syndrome). Neuropathology, 31(5):531-9, 2011
  24. Ito T, Shimizu K, Ogawa A, Uchitomi Y, et al: Usefulness of pharmacist-assisted screening and psychiatric referral program for outpatients with cancer undergoing chemotherapy. Psychooncology, 20(6): 647-54, 2011
  25. Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al: Psychiatric disorders in patients who lost family members to cancer and asked for medical help: descriptive analysis of outpatient services for bereaved families at Japanese cancer center hospital. Jpn J Clin Oncol, 41(3): 380-5, 2011
  26. Shirai Y, Ogawa A, Uchitomi Y, et al: Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial. Psychooncology, 2011
  27. Terada S, Uchitomi Y, et al: Suicidal ideation among patients with gender identity disorder. Psychiatry Res, 190(1): 159-62, 2011
  28. Kishimoto Y, Uchitomi Y, et al: Kana Pick-out Test and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease. Int Psychogeriatr, 23(4): 546-53, 2011
  29. Terada S, Uchitomi Y, et al: Perseverative errors on the Wisconsin Card Sorting Test and brain perfusion imaging in mild Alzheimer's disease. Int Psychogeriatr, 1-8, 2011
  30. Kobayakawa M, Akechi T, Uchitomi Y, et al: Serum Brain-derived Neurotrophic Factor and Antidepressant-naive Major Depression After Lung Cancer Diagnosis. Jpn J Clin Oncol, 41(10): 1233-7, 2011
  31. 内富庸介: がんを抱えたときの心構え. おかやま こころの健康, 53: 4-13, 2011
  32. 井上真一郎, 内富庸介: せん妄の要因と診断. がん患者と対象療法, 22(1): 6-11, 2011
  33. 内富庸介: プラタナス. 週刊日本医事新報, 4545: 1, 2011
  34. 内富庸介: 市民公開講座 ホスピスケアと家族—その抑うつと自殺について—. アディクションと家族, 27(4): 315-22, 2011
  35. 井上真一郎, 内富庸介, 他: 高齢者うつ病に mirtazapine 使用後、せん妄を来した4例. 臨床精神薬理, 14(6): 1057-62, 2011
  36. 内富庸介: コンサルテーション・リエゾン精神医学研究の将来展望. 学術の動向, 16(7): 42-5, 2011
  37. 白井由紀, 内富庸介: がん患者・家族の意思決定補助ツールとしての質問促進パンフレット. 腫瘍内科, 8(1): 57-64, 2011
  38. 内富庸介: メンタルケアはますます重要になる. がんから身を守る予防と検診, 31: 142-52, 2011
  39. 内富庸介: がん医療における心のケア. 社団法人 広島県病院協会会報, 89: 35-45, 2011